

1 X艇の荒川出艇要領（陸送要領）

平成 19 年 10 月 29 日

荒川でスカルを漕ぐ会

氏家 祐二（HoA 実行委員長）

今年も 12 月 1 日に第 2 回 Head of the ARA を実施予定。HoA に出漕するには、安全確保の観点から普段から荒川で乗艇して荒川水域状況を熟知しているクルーの参加を前提としている。舵手付き艇についてはコックスが乗っているし大人数なので、右側通行さえ守っていれば特段難しいことはない。一方、シングルスカル(1X)については、荒川出艇には下記のような難しさがあり、誰でも簡単に乗艇できるという状況にない。

■ 1 X艇で荒川に出艇する際のハードル：

1. 戸田コースにある艇庫から荒川の岸蹴り場までは 500m 程度の距離があり、この間を艇とオールを担いで陸送する必要がある。途中で道路の横断や土手の階段の上り降りなどがあり、1 X艇に関しては陸送要領を知らないと困難。
2. 荒川の岸蹴り場には台船がない。しかも岸蹴り場前では時折大型モーターボートやウェイクボードのモーターが走るので曳き波が来る。こういう状況で補助者無しで 1 X艇を 1 人で出艇・揚艇するには、要領を知らないと非常に難しい。
3. 舵手無し艇は進行方向前方を常時ウォッチすることが出来ないので、他艇との衝突の危険性がある。
4. 荒川は河畔に沿った道路が無く、人気の無い水面で漕ぐ状況が多い。従い、万一事故を起こした場合に、1 人で行動していると救助を求めるのが困難。

■ 荒川でスカルを漕ぐ会：

学生時代から 1 X艇で荒川に出艇してきたベテランの場合は、川の状況や陸送要領を良く心得ている。また、大学生や実業団ボートチームスカラーの場合はコーチの乗ったモーターボートに伴走して貰ったり、或いはモーターが伴走しない場合でも複数の艇で同時帯に出艇し、1 人きりで出艇するという事は殆ど無い。一方、スカル自艇を持ち、1 人きりで乗艇練習することの多いマスターズスカラーの場合、荒川の状況や出艇要領を知らなかったり、例え知っていても 1 人きりで出艇するのは危険が伴うということで、荒川に出したくても出せないという状況が殆どである。

そこでこう言ったマスターズスカル愛好家を対象として、荒川でスカルを漕ぐことの楽しさを分かち合おうという目的の下、今般「荒川でスカルを漕ぐ会」を立ち上げることにした。（事務局は戸田に拠点を置いている J2 の戸塚氏にお願いした）本会では荒川の航路図及び航行ルールを設ける他、1 Xで荒川出艇する際の下記安全確保に関する要件を設定した。（航路図及び航行ルールは、LBRC 活動を介して得た知見を明文化したもので、戸田監督会を介して戸田界隈のクラブにも周知している。）

- ① 経験豊富なスカラーであり、異常が発生した際に適切な対処が出来る者。

- ② 自艇での出艇を前提とし、全て自己責任の下で出艇できる者。
- ③ 事前に天候及び潮位をチェックし、危険な時には出艇しない。
- ④ 水温 10 度以下となる冬場には出艇しない。
- ⑤ 荒川での乗艇予定をクラブ管理者に事前に連絡する。
- ⑥ 荒川の状況を熟知し、航路・航行ルールを遵守する。
- ⑦ 万一の事態を勘案し、救命具及び防水対策した携帯電話等を携行する。
- ⑧ 単独行動を避け、2 艇以上の複数で出艇する。
- ⑨ 出艇前及び出艇中に体調管理に留意し、不調時は出艇しない。
- ⑩ 手漕ぎボートも水上交通法規の対象であり「前方注意義務」がある。

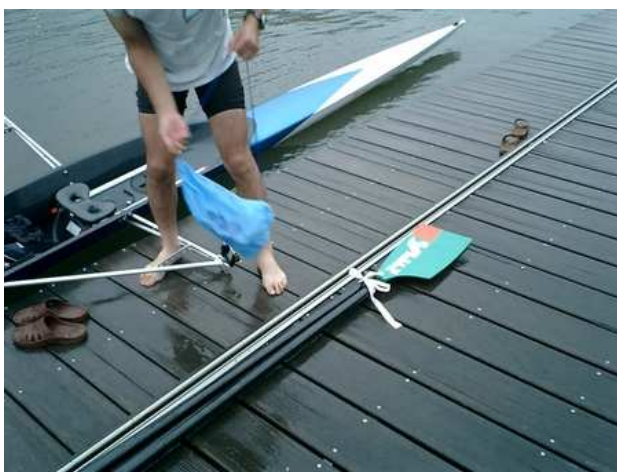
■ 荒川出艇時の陸送要領：

以下、1 X艇荒川出艇時の艇及びオールの陸送要領の一例を紹介する。

- (1) バックステーが付いていると水際での乗り降りが難しいので、荒川初級者はバックステーを外した方がハンドリングしやすい。



- (2) 陸送時はオールのネック部を紐で縛る。こうすると陸送中にオールが荷崩れしない。



- (3) 戸田コースの台船から荒川へ。艇とオールはこうやって運ぶと安全且つ確実。



- (4) 荒川への陸送難所の土手超えの階段。艇を階段や手摺にぶつけないように、艇を階段と平衡にして運ぶ。



- (5) 荒川初級者は水際の手前にある草地に艇とオールを先ず下ろす。(1X艇は軽いので草地の下ろしても問題なし。)ここでオールを縛った紐を解き、先ずオールを水際へ運ぶ。



- (6) 続いて、オールの置いてある水際まで艇を運び浮かべる。



- (7) 後は艇にオールを取り付けて岸を蹴って乗艇するだけ。この写真でも分かるがバックステーが無いと、初級者でも艇の乗り降り等が楽に出来る。



- (8) 乗艇終了し揚艇したら、初級者は先ず1 X艇を土手の草地の上に置き、オールのネックを縛って陸送準備する。(水際でモタモタしているとモーターボートの曳き波を食らって大事な艇に傷がついてしまう。だから先に艇を草地に上げてしまおう)



以上